一般財団法人 運輸総合研究所

運輸総合研究所　第５６回　研究報告会

○日　時：**2025年5月29日（木）13:30～17:30（開場:13:00）**
○会　場：トラストシティカンファレンス・丸の内（丸の内トラストタワーN館11階）Room2～4
及びオンライン配信（Zoomウェビナー）

プログラム

注）プログラムは変更になる可能性があります。

【開会挨拶】宿利　正史　運輸総合研究所　会長　13：30-13：35

【研究調査の概況】

屋井　鉄雄　運輸総合研究所　所長　13：35-13：50

【報告】

（1）フランスの観光・宿泊産業の付加価値向上に向けた取組と日本への示唆

発　表　者　**岡田　良子**　研究員
髙橋　靖史　研究員　13：50-14：20

（2）From Views to Visits ～訪日外客の観光行動に対するインフルエンサーの役割～

Presenter　Research Fellow　**Dr. SHAH SYED ARIF HUSSAIN**
発　表　者　**シャフ　シェド　アリフ　フセイン**　研究員　14：20-15：00

（3）弾道飛行等による大陸間輸送事業に関する法的諸問題に関する研究会の報告概要

発　表　者　**藤﨑　耕一**　主席研究員・研究統括　15：00-15：40

＜休憩・意見交換＞　15：40-16：05

（4）バス・タクシー・鉄道の自動運転導入の効果・影響分析
～運輸分野における自動運転導入の効果・影響と普及加速化に関する調査研究～

発　表　者　**長谷川　稜**　研究員
渡邉　洋輔　研究員　16：05-16：45

（5）国内交通分野における脱炭素化の見通しとその影響分析
～交通産業GXロードマップに関する調査研究～

発　表　者　**東山　祐也**　研究員
加藤　雄太　研究員　16：45-17：25

【閉会挨拶】上原　淳　運輸総合研究所　理事長　17：25-17：30

会場アクセス

トラストシティカンファレンス・丸の内

〒100-0005　東京都千代田区丸の内1-8-1
丸の内トラストタワーN館11階
・JR東京駅 八重洲北口改札を出て左方向、日本橋口より徒歩1分
・東京メトロ 丸の内線・東西線・千代田線・半蔵門線 大手町9b出口より徒歩1分
・東京メトロ 銀座線・東西線／都営浅草線 日本橋駅 A3出口より徒歩4分

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

運輸総合研究所　第56回研究報告会　登壇者のご紹介

開会挨拶

宿利　正史　会長

1974年東京大学法学部卒、運輸省（現：国土交通省）に入省。航空局審議官・監理部長・次長、大臣官房総括審議官、自動車交通局長、総合政策局長、大臣官房長、国土交通審議官、事務次官を歴任。
2013年8月から東京大学公共政策大学院客員教授(交通政策)、2014年4月から一般社団法人国際高速鉄道協会(IHRA)理事長、2021年6月から公益財団法人日本海事センター会長を務める。
2018年6月より現職。

研究調査の概況

屋井　鉄雄　所長
博士（工学）

1985年東京工業大学大学院理工学研究科土木工学専攻博士課程修了。東京工業大学工学部土木工学科助教授、教授、マサチューセッツ工科大学客員准教授、東京工業大学大学院総合理工学研究科教授、研究科長、同大学環境・社会理工学院教授、副学長を経て、2023年4月から同大学特命教授・名誉教授、2023年5月から東京医科歯科大学(現：東京科学大学)特任教授。交通政策審議会委員、社会資本整備審議会臨時委員、アジア交通学会会長を歴任。
専門分野：国土・都市計画　環境交通工学。
2023年6月より現職。

主なSDGｓ関連項目

フランスの観光・宿泊産業の付加価値向上に向けた取組と日本への示唆

【概要】
　観光産業は経済成長をけん引する重要産業であるが、我が国においては人材確保や生産性向上が課題となっている。運輸総研では、2023年７月に公表した「地域観光産業の基盤強化・事業革新に関する提言」に基づき、「地域観光産業の見える化に関する検討委員会」を設置し、宿泊事業の生産性向上に関する取組について調査している。
　発表では、現地調査を実施したフランスにおける宿泊産業の現状、政府・自治体の施策、宿泊事業者の取組を紹介し、日本への示唆を考察する。

発表者　岡田　良子　研究員

1993年4月に運輸省関東運輸局に入局し主に観光、鉄道、自動車に従事。その後2008年10月に国土交通省観光庁へ出向以来、国際観光振興や観光地域振興などの観光行政に従事。2024年4月より現職。

発表者　髙橋　靖史　研究員

2009年3月法政大学工学部都市環境デザイン工学科卒業。
同年、京王電鉄株式会社入社。
駅改良や連続立体交差事業における計画、設計、施工管理業務、並びに連続立体交差事業における用地取得業務に従事。2023年7月より現職。

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

運輸総合研究所　第56回研究報告会　登壇者のご紹介

From Views to Visits ～訪日外客の観光行動に対するインフルエンサーの役割～

【Abstract】

Overtourism with a concentration in popular travel destinations is creating challenges for both local communities and national economies worldwide. This study aims to explore the impact of social media influencers on viewer sentiments and destinations choices as well as behavior of inbound tourists.

Sentiment analysis, aspect-based sentiment analysis, emotion detection and topic modelling will be done via advanced Large Language Models (LLMs) to extract viewers' comments on videos through Application Programming Interface (API).

This study will help the tourism industry, government agencies and destination management organizations (DMOs) to optimize marketing strategies for sustainable tourism in Japan and to enhance tourist experiences at the same time, in cooperation with social media influencers.

【概要】

人気の旅行先への集中によるオーバーツーリズムは、世界中の地域社会と国の経済の双方に課題をもたらしている。本研究は、ソーシャルメディアのインフルエンサーが、視聴者の感情と旅行先選択並びに日本旅行中の行動に与える影響を探ることを目的とする。

感情分析、観点別の感情分析、情緒検出及びトピックモデリングを、APIを通じて抽出した、動画に関する視聴者のコメントを用いて、高度な大規模言語モデルによって行う。

本研究は、観光事業者、政府機関及びDMOが、ソーシャルメディア・インフルエンサーと協力しながら、日本における持続可能な観光のためのマーケティング戦略を最適化し、同時に観光客の体験を向上させるのに役立つことを目指す。

Presenter　Dr. SHAH SYED ARIF HUSSAIN

Research Fellow

Ph.D.(Environmental Science and Infrastructure Engineering – Transportation and Planning)

SDG s goals

主なSDG s 関連項目

Dr. Arif earned his Ph.D. from Saitama University, Japan, in 2022. Previously, he served as a Lecturer in the Department of City and Regional Planning at UET Lahore, Pakistan. Before joining JTTRI, he also worked as an Urban Planner at City Pulse (Pvt.) Ltd.

His research interests include urban planning, travel behavior, transportation planning, and sustainable tourism.

発表者　シャフ　シェド　アリフ　フセイン　研究員

博士（環境科学・インフラ工学-交通計画）

2022年に埼玉大学で博士号を取得。
それ以前は、パキスタンのUETラホール校都市・地域計画学科講師を務める。入所以前は、City Pulse（Pvt.）Ltd.で都市プランナーとして勤務。研究テーマは、都市計画、旅行行動、交通計画、持続可能な観光など。2024年8月より現職。

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

運輸総合研究所　第56回研究報告会　登壇者のご紹介

弾道飛行等による大陸間輸送事業に関する法的諸問題に関する研究会の報告概要

主なSDG s 関連項目

【概要】

超音速旅客機、サブオービタル飛行技術等の開発により、高速での大陸間輸送事業が近未来に実現する可能性がある。このうち、サブオービタル飛行は、宇宙空間と評価されうる空間に一時的に入り、 地上に戻るものである。学識・実務者から成る研究会では、このような新しい交通手段による民間国際輸送事業を促進するために、それに適した新たな国際的法制度について、公法と私法に亘って検討し、提言をまとめた。その概要を報告する。

発表者　藤﨑　耕一　主席研究員・研究統括

博士（政策研究）

運輸省入省以降、国土庁地方振興局、内閣府国民生活局[消費者庁]、財団法人運輸政策研究機構[一般財団法人運輸総合研究所]、㈱日本総合研究所、鉄道・運輸機構、農林水産省への出向を含め、運輸（総合・地域交通、物流施設、技術安全、国際、危機管理、鉄道、自動車、海上技術安全）、観光（国際観光、持続可能観光）、地方・農村振興、消費者、PFI等に従事。途中、ドイツ連邦交通省・ドイツ鉄道短期在外研究、JNTOフランクフルト観光宣伝事務所次長、中国運輸局交通環境部長、OECD消費者政策委員会副議長、Ｇ７長野県・軽井沢交通大臣会合準備室長。2022年10月より現職。

バス・タクシー・鉄道の自動運転導入の効果・影響分析

～運輸分野における自動運転導入の効果・影響と普及加速化に関する調査研究～

【概要】

交通機関の自動運転化は、運転手不足などの社会的課題の解決や交通産業の発展に大きな役割を果たすことが期待されていることから、自動運転の普及に向けて、商用車、鉄道といった分野のそれぞれの現状・課題を整理し、前回の研究報告会で報告した。今回、バス・タクシー・鉄道を同時に自動運転化した場合に関して、効果や影響の関係性を体系的に整理し、その一部のシミュレーションを実施した。それらを踏まえた交通機関の自動運転化の効果や影響について報告する。

主なSDG s 関連項目

発表者　長谷川　稜　　研究員

2015年３月立命館大学理工学部電子光情報工学科卒業。同年4月オムロンソーシアルソリューションズ株式会社へ入社後、運賃のデータ設計者として運賃計算モジュールの開発や消費税運賃改定等を担当。2019年からは関東の鉄道事業者様向けシステムのSE／PMとして、収入系システムのクラウド化や定期券Web予約システムの開発、乗車ポイントシステムの開発等に従事。
2024年4月より現職。

発表者　渡邉　洋輔　研究員

2008年3月北海道大学工学部機械工学科卒業。同年4月日本信号株式会社に入社。2011年より国際事業部にて、鉄道信号システムや道路交通システムの海外向け営業を担当。台湾駐在を経て、日本に帰国後は、タイ・インドネシア・フィリピンの他、中国・韓国などの各国案件の営業及びプロジェクト管理に従事。
2023年4月より現職。

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

運輸総合研究所　第56回研究報告会　登壇者のご紹介

国内交通分野における脱炭素化の見通しとその影響分析
～交通産業GXロードマップに関する調査研究～

主なSDGｓ関連項目

【概要】

交通産業は我が国のCO２排出量の約２割を占めており、2030年、2040年の削減目標は設定されていますが、2050年カーボンニュートラルに向けた道筋は不透明な状況です。
運輸総合研究所では、「交通産業GXロードマップ検討会」を立ち上げ、複数シナリオによる交通モード横断的なシナリオシミュレーションやその結果に基づく経済影響分析等を行い、交通産業のGXを円滑に進めるための方策を検討しました。本報告では、シナリオシミュレーションの内容を中心に、その内容をご報告します。

発表者　東山　祐也　研究員　修士（工学）

2012年3月東京大学大学院工学系研究科システム創成学専攻修了。同年4月東海旅客鉄道株式会社へ入社。新幹線及び在来線の乗務員を経て、在来線乗務員の教育計画の企画業務および乗務員職場の管理者業務に従事。また、本社にて会社の安全対策に関する業務、リニア中央新幹線に関する業務に従事。
2023年7月より現職。

発表者　加藤　雄太　研究員

2013年３月慶應義塾大学商学部卒業。同年４月京成電鉄株式会社に入社後、人事部にて就業規則等の諸規則の管理や社員の採用・教育等の労務人事業務に従事。その後運輸部にて、駅務機器の管理、特急券予約システム・駅収入管理システムの更新プロジェクト等に従事。2023年7月より現職。

閉会挨拶

上原　淳　理事長

1987 年東京大学経済学部卒、
運輸省（現：国土交通省）に入省。
外務省在タイ日本国大使館一等書記官、
国土交通省自動車交通局、航空局、総合政策局、観光庁、
海上保安庁次長、鉄道局長、国土交通審議官（国際）を歴任。
2024年11月より現職。

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION